

## 主御自身が建ててくださるのでなければ

平 松 一 夫

本年4月、関西学院大学のもっとも新しい学部として国際学部が誕生した。世界を舞台に伝道と医療と教育に生涯をささげたランバス博士を創立者にもつ関西学院にふさわしい学部として、この学部から建学の精神を身につけた多くの世界市民が育っていくことを心から念願している。

そんな思いを抱いていた4月10日、淀川キリスト教病院の「石田病院長退任感謝・椋棒病院長就任披露式典」が執り行われた。両院長のお人柄と貢献にふさわしく、多くの関係者が参加する、まことに祝福された式典であった。

淀川キリスト教病院は、キリスト教の精神により「全人医療」を行うため、宗教学法人在日本南プレスビテリアンミッションが1955年に大阪市東淀川区の淡路に開設した病院である。この病院では、同じ東淀川区の柴島に新しい建物を建てて近く移転する計画が進められている。このたび退任・就任された二人の院長は、力を合わせてこの大事業を推進してこられたのである。式典の冒頭、中西典彦理事長は、聖書の詩編127の聖句にもとづき、「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の苦勞はむなしい」と語られた。

米国ミッション本部を代表して式典に参加されたサイモン・パーク氏は、祝辞の中で、淀川の地に蒔かれた一粒のからし種が成長したことを祝福する本部からのメッセージを紹介された。このパーク氏は12年前にミッション本部の活動に転身されたが、それまではアメリカにおける会計学の名門イリノイ大学で会計学教授を務めておられたとのことである。会計学者である私にとって、そのことはまことに大きな驚きであった。これを臨んで席っておられた市川忠彦牧師に話すと、神様は時に私たちの思いを超えたことをなさる、との答えが返ってきた。

新設の国際学部の関係者は、国際学部を関西学院に真にふさわしい学部として育てるべく尽力されると確信しているが、同時に「主御自身が建ててくださるのでなければ」という大切なことと、神様は教職員その他の関係者の思いを遙かに超えた備えをなさるであろうということに思いを馳せつつ、その務めを果たしていただきたいと願っている。

(商学部教授)